

四国がんセンター

「風の音プロジェクト」



～風の音と光 自然を感じる通路～

■ 風の音プロジェクトについて

砥部分校では、四国がんセンターホスピタルアート第2弾として、令和2年2月22日（土）23日（日）の2日間で「風の音プロジェクト」に取り組みました。無機質な印象だった駐車場からの通路に、「季節ごとの風が吹き、それに乗って植物が運ばれていくような空間」をイメージして制作しました。このプロジェクトは、令和元年度3年生の課題研究で、小山ひなたさんと十川千波留さんが研究した内容を実現したものです。

■ 光庭プロジェクトとのつながり

令和元年5月14日にお披露目となった「光庭プロジェクト」は、中庭のガラス面に「四国に住む動物たちが色々に変化しながら協力して種を運び、小さな3つの芽が出る」というストーリーのカラーフィルムを貼って制作したプロジェクトで、命の循環がテーマになっています。今回のプロジェクトでも、「いろいろなものが繋がりながら変化し、循環していく空間」を目指して制作しました。両側の壁に描かれているのは季節ごとの風のイメージで、通路中ほどにある採光窓には光に向かって伸びていこうとする植物が描かれています。天井には、その風によって植物が流れていく様子が描かれ、自然を感じる空間になっています。



■ 通路のイメージ図



このプロジェクトは、砥部分校の生徒8名と四国がんセンターTEAM2kaiのメンバーが協働で行いました。

